

平成25年度「確かな学力の伸長を図る調査」の
分析に基づく授業改善推進プラン

東久留米市立 南 中学校

(3) 学年 (数 学) 科

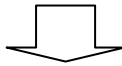
1 「確かな学力の伸長を図る調査」の分析結果

これまでの指導の成果

- ・授業中に教科書と同様の副教材やワークシートを使用し、演習問題を解かせることで、授業内容の理解と定着を図った。
- ・教科書の問題を黒板等で自ら解かせ、どうしてそうなるのかを質問し、自信を付けさせた。
- ・ワークシートやプリントの問題を多様に用意して、生徒一人一人の力にあわせた演習問題を解かせるなど、個に応じた指導を行ってきた。
- ・基礎基本の定着とともに、朝や放課後、長期休業中に補習補講を実施することで、補充・発展両面からの指導を行ってきた。

課題

- ・数量、図形ともに、基礎基本の定着や基礎知識の乏しいものが、一定数いる。
- ・文章題を理解する力が弱く、出題の題意や要点を読み取ることができない傾向がある。
- ・公式や授業での理解度はあるものの、応用問題や見方を変えた問題には苦手意識をもつ傾向がある。



2 課題解決に向けた具体策について

個に応じた指導について(補充的な学習及び発展的な学習の推進に向けて)	
補充的な学習	発展的な学習
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の10分間学習による復習 ・年間計画で、既修単元の復習の時間を設定して、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着のために、ワークシートの毎回の点検や定期考査ごとにワークを提出させる。 ・副教材を見直し、生徒一人一人の定着にあった問題を作成し、発展的な学習と個に応じた指導を行っている。
その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・証明の書き方などを統一したり、模範的な解答を示し、生徒間の答合わせや教えあいの場面に役立っている。 ・既習内容にそった練習問題を作成し、定着を図る。 ・身近な課題学習を通して、数学を親しめる教科と思わせ、数学的な考え方や表現方法、読み解きの経験を積ませる。 ・授業アンケート結果を踏まえ、なお一層わかりやすい授業を展開し、数学好きを増やす。 	

※ 各校授業改善推進プランを作成に当たって、国語と算数・数学は、このプロットを付け足してください。

※ 今までの各校独自のプロットは、このあとに付けるようお願いいたします